

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月15日

協議会名: 長野県公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	山田温泉線 ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	路線再編を実施するため、関係機関と断続的に協議を行なった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.2 に対して 実績輸送量28.0であった。	H30.10運行開始予定の再編実施計画策定に向け、詰め協議を進めていく、
	上林線 ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	路線再編についての協議を行ない、運行経路の見直しを図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:22.9 に対して 実績輸送量24.0であった。	H29.10に実施した路線再編の影響を見極めていく。
	須賀川線	路線再編についての協議を行ない、運行主体を山ノ内町に移管した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:16.3 に対して 実績輸送量15.8であった。	H29年度をもって事業が完了した。
	永田線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	バスの利用促進を図るため、小学生に対しバスの乗り方説明会を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.1 に対して 実績輸送量22.9であった。	免許返納が増加していることから、高齢者に対し、バスの乗り方説明会の計画を進めていく。
	屋島線 ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	バスの利用促進を図るため、小学生に対しバスの乗り方説明会を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:22.4 に対して 実績輸送量21.8であった。	車から公共交通機関への乗り換えを促進するため、警察等と連携し、高齢者向けの安全講習会の計画を進めていく。
	牟礼線 ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	ヤマト運輸や関係機関と貨客混載運行実施に向けた協議を行なった。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:32.5 に対して 実績輸送量30.4であった。	荷物の運搬と、乗客双方が利用しやすい運行時間帯の検討を進めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	野沢線	季節的な観光需要を取り込むため、飯山観光局と連携し、セット乗車券での利用促進を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:42.4 に対して 実績輸送量37.1であった。	春にJRの時刻改正が予定されていることから、新幹線及び並行在来線との接続見直しを進めていく。
	中野木島線 ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	通勤・通学における利便向上を図るため、時刻改正を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:19.2 に対して 実績輸送量17.7であった。	春にJRの時刻改正が予定されていることから、新幹線及び並行在来線との接続見直しを進めていく。
	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅) ※車両減価償却費等国庫補助金を受けている	バスの利用促進を図るため、小学生に対しバスの乗り方説明会を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:17.6 に対して 実績輸送量20.0であった。	車から公共交通機関への乗り換えを促進するため、警察等と連携し、高齢者向けの安全講習会の計画を進めていく。
	屋代須坂線(須坂駅～松代駅)	バスの利用促進を図るため、小学生に対しバスの乗り方説明会を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:24.8 に対して 実績輸送量22.4であった。	車から公共交通機関への乗り換えを促進するため、警察等と連携し、高齢者向けの安全講習会の計画を進めていく。
アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府) ※ノンステップバス車両購入	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量40.1 に対して、 実績輸送量37.6であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っていく。
	高府線(善光寺大門～初引)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量20.4 に対して、 実績輸送量21.5であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っていく。
	鬼無里線	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、市営バスとの乗継の接続を図るなど、ダイヤの改善を検討している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量46.4 に対して、利用者が伸びなかったことから、 実績輸送量42.1であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	県道戸隠線	学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量41.0に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量39.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量31.9に対して、実績輸送量33.1であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋・犀峡高校)	ノンステップ車両の導入など、学生、高齢者などの交通弱者が使いやすい公共交通サービスの提供を目指す。また、ICカードくるるのデータを継続的に分析し、それを基にダイヤの改善を検討している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量31.8に対して、実績輸送量31.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っていく。
	山形線 ※ノンステップバス車両購入	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を実施するとともに、バリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量34.3に対して、実績輸送量30.7であった。	山形村及び松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	四賀線	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量29.4に対して、実績輸送量30.4であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古の低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っていく。
	本線 岡谷～茅野線	従来より、本線にはノンステップ、ワンステップバスを導入して好評を頂いている。又低公害のハイブリッドバスを導入するなど環境に優しい車両で運行し好評を得ている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量37.0に対して、実績輸送量38.8であった。	利用旅客の減少が続く中、ダイヤ、運行系統の見直しを実施した。その結果、輸送量が1.0人増となった。今後も旅客のニーズにあった運行を目指し利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千曲バス(株)	佐久上田線	土日祝日の運休を引き続き実施して経費削減を図った。また、上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:15.0 に対して 実績輸送量18.1であった。	沿線自治体からの支援をいただきながら、引き続き土日祝日の運休を実施し経費削減を図る。また、運賃低減バスが継続されたため、今後もバス存続に向けて地域への働きかけを実施する。
	中仙道線	コミュニティバスとの接続を考慮し、ダイヤの見直しを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:40.0 に対して 実績輸送量46.0であった。	10月から運行開始となった、佐久市循環バスとの連携をして、利用しやすい交通形態の構築を図る。
	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:50.0 に対して 実績輸送量51.8であった。	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	鹿教湯線(丸子～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:60.0 に対して 実績輸送量62.3であった。	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。
	青木線	青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:70.0 に対して 実績輸送量75.0であった。	県有民営による幹線バス路線確保対策事業を活用して中型ノンストップバス導入し、高齢者や障害者の利便性および安全性を向上させる。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
上田バス(株)	真田線	夏休みキッズパスの配布。連動し、夏休みスタンプラリーキャンペーンを実施することで将来の利用者掘り起し。	A	計画に位置された事業は適切に実施されている。	A	目標輸送量15.3人に対して輸送量は21.2人であった。	NHK大河ドラマの影響による客足の伸びを活かす。今後もバス乗り方教室の開催やチラシの発行による利用啓発を促す。
	菅平高原線	沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施。将来の利用者掘り起し。複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施。	A	計画に位置された事業は適切に実施されている。	B	目標輸送量44.4人に対して輸送量は41.4人であった。	NHK大河ドラマの影響による客足の伸びを活かす。菅平観光協会と協力し、今後も野菜のプレゼント等の企画を実施していく。
	真田自治センター入口線	夏休みキッズパスの配布。連動し、夏休みスタンプラリーキャンペーンを実施することで将来の利用者掘り起し。	A	計画に位置された事業は適切に実施されている。	A	目標輸送量27.7人に対して輸送量は34.4人であった。	上田市と協力し、引き続きNHK大河ドラマの観光客取り込みを目指す。観光利用客に向け路線案内の充実を図る。
信南交通(株)	駒場線(中村経由) 飯田駅前～中村～曾山入口	高校生の利便性を確保するよう阿智高校の学校行事にあわせ臨時便・続行便の運行を行った	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送量38.2人以上の目標に対し42.9人となり目標を達成した	公有民営車両補助により車両更新を行いお客様の利便性・快適性を向上させる
	駒場線(市立病院経由) 飯田駅前～市立病院～曾山入口	高校生の土曜日部活動に配慮し運行回数の増回を行った	A	計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	輸送量23.1人以上の目標に対し23.8人となり目標を達成した	飯田市立病院を利用する妊婦を対象とした新たな割引制度を検討中